

九州作業療法学会 2024 in 大分では、参加者が主体となる企画として『Innovation space』を用意しました。学会の一会場を利用し参加者が企画したイベントを実施します。

## Innovation space ①

6月22日(土) 14:00～15:30

### 精神障害分野は測ろう！

申込者：福田 健一郎(専門作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)  
医療法人栄寿会 真珠園療養所

共同発表者：杉村 彰悟 (認定作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)  
医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

2022年の当学会での発表(杉村ら)によると、精神障害系の作業療法士は身体障害系の作業療法士に比べ、評価を実施していなかった。また、学術経験が少ない精神障害系作業療法士に限ると8割弱が評価を実施していなかった。別の報告では、評価にあたって客観的な評価尺度を用いていなかったという報告もある。

効果指標として「評価」はとても重要と思われ、「評価」を実施することは学術活動、すなわち精神科作業療法の効果の論証につながると思われる。そこで、今回は精神科作業療法で利用できる評価尺度をいくつか紹介および配布し、精神障害系に評価尺度使用の定着を図りたい。

## Innovation space ②

6月22日(土) 16:00～17:30

### 学習療法<sup>®</sup>を学び、体験ができます！

申込者：藤井 麻紀(作業療法士) 社会福祉法人敬愛会 デイサービスセンターさざんか荘

認知症の方の脳機能維持や改善、または予防するための非薬物療法です。学習というイメージから正しく解く(間違えない)ことで、脳機能を高めると勘違いされている方が多いのが現実です。実は全く違うのです。脳科学の研究から分かっていることは、簡単な(8+3=)計算を素早く解いたり、文章を音読している時は、認知症の方でも脳全体が活性化した状態になることが分かりました。しかも長い時間取り組む必要もありません。それぞれで5～10分程度でよいのです。

脳画像や実際の学習者事例をご紹介します。参加された方には学習療法の学習体験もできます。ご質問にもお答えしたいと思います。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしております。

## 3D プリンターで作製した自助具を使った 退院後の地域生活者の課題発見と解決法について

申込者：川口 晋平(作業療法士) アイソトープ

アイソトープは、片手生活を送る方々の QOL 向上を目指して活動しています。脳卒中で麻痺が残ると ADL・IADL 動作が困難になりますが、適切な自助具の活用で動作が可能になります。しかし、片手用の自助具は種類が不足しています。そこで、作業療法士としての経験を活かし「3D プリンター×作業療法」により、片手でも利用できる自助具の開発に取り組んでいます。このプレゼンでは、片手生活者の課題、地域のニーズ及び解決方法を動画を交えて紹介します。皆様に課題を共有し、それらを解決できるセラピストが1人でも増えることを願っています。

## 当事者・療法士協働によるデザインと新製品のご紹介

共同発表者：笈沼 清紀 ケアウィル

株式会社ケアウィルの代表・笈沼と、これまでにケアウィルと共に福祉製品づくりに携わった大分・宮崎・長崎・福岡の作業療法士の OT が、ものづくりの軌跡、OT が福祉製品づくりに関わることの社会的意義と職業的価値、これまでの苦労話などをざっくばらんにお話しします。九州外の OT ともつなぎ、双方向で意見交換ができる場を設けます。また、今年はじめて自治体も加わり開発された『車いす利用者用レインウェア』やリウマチと片麻痺の患者さんの洗濯の自立を支援する『洗濯ネットバッグ』といった企業×地域 OT×対象者さんとのコラボレーションで生み出された製品を題材にしながら、対象者の皆さんの生の声も動画を使ってご紹介します。